

委員会調査(研修)報告書

NO.

令和 / 年 / 月 / 日

胎内市議会議長

薄 田 智 様

(報告者) まちづくり常任委員会

委員長 渡辺秀敏

まちづくり常任委員会閉会中所管事務調査 について、
議会会議規則第110条により、下記のとおり報告します。

調査・研修 日 時	自 令和 1年 10月 21日 至 令和 年 月 日 泊 日 (日間)	調査・研修 場 所	新潟フルーツパーク 胎内高原ワイナリー
調査・研修 事 項	新潟フルーツパーク 現地調査 胎内高原ワイナリー ワイン造りの工程・製造販売の状況について		
調査・研修 出席者(参加者)	薄田智議長、渡辺秀敏委員会、渡辺栄六副委員長、渡辺宏行委員、丸山孝博委員、桐生清太郎委員、森田幸衛委員、天木義人委員、坂上隆夫委員		
相手方(対応者)	榎本農林水産課長、担当係長		

調査の結果または概要

新潟フルーツパーク

現地調査

既に収穫済みであったが、加工用ぶどう畑が 6.8ha、ブルーベリー畑が 1.5ha の面積を有しており、周りは猿などの野生動物が入れないように電気柵で囲まれている。収穫量は、今年度は 18,125 t で、近年最高であった平成 28 年度の 28,582 t から比べるとかなり減少している。原因は病気や雪による倒木、更には山からの風によって木が枯れてしまったことによるとのことだが、クラウドファンディング等を利用して少しずつ補植を行っているとのことであった。

胎内高原ワイナリー

醸造の工程及び製造販売の状況について

今年収穫したぶどうでワインの醸造中であった。赤はねかせてから搾り、白ははじめに搾ってからジュースの状態でねかせること、熟成期間は半年から 1 年であり、それ以上ねかせると匂いが強くなりすぎることなどワインづくりについて教わった。3 万本まで製造可能で、2 万 5 千本が最適だが、今年は約 1 万 5 千本とのことであり、販売先は県内を中心とした問屋をはじめ、胎内ロイヤルパークホテル、中条駅、ビール園、道の駅等とのことである。

調査の所見・感想

ぶどうの木を健全な状態で維持することや簡単には本数を増やせないことなどぶどう栽培の難しさを実感した。今年度の収穫量は約 1 万 8 千 t であるが、まずは、平成 28 年度の約 2 万 8 千 t まで回復してほしいと願うところである。

ワインについては、ぶどうの収穫量を上げることで、生産本数を増やすと同時に、コンクールにおいて、これからも優秀な成績を維持し、胎内市の魅力向上と活性化につなげていくことを期待する。